

学習意欲の向上における性格や動機との関連性についての研究

1220580 山本紗羅

指導教員 林一夫教授

研究背景

ベネッセ教育総合研究所の調査によると、大学生の学習に対する意識は薄れつつある。しかし、コロナ禍の採用活動において「意欲的である」人材を求めている企業が増加している。また、組織活動において同じ環境やアプローチの仕方でも人によって意欲が向上する度合に変化が見られたことから、意欲が向上する要因の 1 つとして考えられる性格や動機との関連性について検討した。

研究目的

本研究では、学習意欲が向上する要因について性格や動機との関連性を明らかにすることで、個人に合った意欲向上方法を考察し、組織経営に活用することを目的とした。

調査・分析方法

意欲向上の仕組みについて先行研究と実体験を基に調査・考察を行った。性格と動機に関しては先行研究を基に調査し、アンケート調査を実施することで意欲向上と性格や動機との関連性について考察した。

分析結果

自己決定理論を用いた考察により、高い意欲を発揮できる人は目的を達成するための手段に楽しみを見出していることが証明された。また、内発的動機付けの要因は性格によって変化することが明らかになっており、性格によって動機が異なることがエニアグラムの理論からわかった。加えて、先行調査と実体験から、外発的動機づけと内発的動機づけの間には大きな溝があることを提示し、大きな溝を埋めるために必要な 3 つの基本欲求の満足度の器の大きさは性格によって変化するののかについてアンケート調査から考察した。

考察・結論

アンケート調査の結果、性格タイプによって 3 つの基本欲求の満足度に特徴があり、欲求を満たす器の大きさは性格によって変化していることが明らかになった。このことから、高い意欲を発揮するためには自分自身が楽しいと感じられる動機を知ることが重要であると言える。以上の結果を基に、性格タイプごとの意欲向上に効果的だと考えられる「状況」と「具体的な手段」について考察し、性格に合った意欲向上の方法について提案した。本研究の成果を活かすことで、個人の意欲向上だけでなく、周囲の意欲向上を図ることで組織経営に好循環をもたらせられることに期待したい。